

Title	「臨床死生学・老年行動学」研究のさらなる発展に向けて
Author(s)	藤田, 綾子
Citation	生老病死の行動科学. 2008, 13, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/3740
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

「臨床死生学・老年行動学」研究のさらなる発展に向けて

藤田綾子

「生老病死の行動科学」第13巻ができましたのでお届け致します。

本冊子は、大阪大学大学院人間科学研究科「臨床死生学・老年行動学」研究分野で学ぶ院生を中心に、学部学生、卒業生ならびにスタッフが日々積み重ねている研究の一部を中心に毎年発行してきています。

本研究分野では古今東西注目を集めていた課題を扱っていますが、人間科学研究科の中では最も新しく、1993年4月に設立されました。従って、今年で15年目を迎えたことになります。この間、14人が博士号を取得しました。現在は、3年次生3名、4年次生4名、博士前期課程8名、後期課程7名が在籍し学んでいます。

この15年間は、わが国にとって総理大臣が10人も変わるようなめまぐるしい時代でありました。高齢化率は13%から22%まで上昇し、平均寿命は男性は76歳から79歳へ、女性83歳から86歳へと伸び、高齢者を取り巻く状況は大きく変わりました。この勢いはまだまだ続き2055年には高齢化率は40.55%、平均寿命は男性84歳、女性90歳になると推計されています。このような高齢者を取り巻く状況の変化は、高齢者の生き方に、そして、当然のことながら私たちの研究内容にも影響を及ぼしてきます。

われわれの研究分野は「臨床」という冠をかぶっています。このことは、基礎的な研究の重要性とともに、高齢者や病気を持つ人たちの実際の生活に役立つことを常に念頭に置き、それらの問題を心理学的な原理や知識を統合して解決していこうとしている研究室であることを示しています。従って、本巻に掲載されている論文も人格心理学、発達心理学、認知心理学、社会心理学を基礎としながら展開されています。今後、本巻に掲載されているこれらの研究が実りある成果を出していくためには、読んで頂いた方々からの真摯な評価とご教示を必要としています。率直なご意見をお願い致しますとともにさらなるご指導をお願いいたします。